

このまちの記憶を次世代へ 守りたい、私たちの山城

歴史紀行の連載「お城拝見」が100回を迎えました。これまで紹介してきた山城は、この地域の歴史や人々の営みを

今に伝える貴重な文化財です。県内有数の山城のまち・安芸高田市。山城の価値や大切さを、改めて見つめてみます。

※多くの山城は私有地ですので、登城の際は麓で住民の方に声を掛けてください。

「地域のタイムマシン」山城を受け継ぐ意味

地域の個性を残す存在

現代は、全国どここの町にも同じような大型スーパーやコンビニが並び、街の均一化が進んでいます。人が暮らす場所は開発が進み、昔の風景は失われてきましたが、城跡はいわば地域のタイムマシン。その土地で生きた人々の営みや争い、暮らしの記憶が残されており、その地域ならではの歴史やアイデンティティーが息づいています。

県内有数の山城のまち

安芸高田市は県内でも特に山城が多い地域で、130か所以上の城跡が確認されています。これらはほとんどが、毛利氏が安芸国を掌握するまでの南北朝時代から戦国時代にかけて築かれたもの。江の川流域を中心に集落が発展する中、地域同士の争いも増え、自衛のために山城が築かれたと考えられています。このように山城は、地域の歴史をひもとく手掛かりにもなります。

地形に刻まれた当時の知恵

山城の見どころは、山を削り、土を盛って築かれた地形そのものです。敵が攻め込みにくいよう尾根を断ち切る「堀切」を設けたり、平坦地を人工的に造成したりと、山全体を利用した大規模な土木工事が行われていました。



こうした人工的に整えられた地形からは、当時の人々の知恵や工夫を感じ取ることができます。

歴史を体感できる文化財

文字で残された記録は、読むことで当時の様子を想像できますが、その時代を実際に体感するには限界があります。一方、山城には石垣や削られた曲輪、堀切など、当時の人々が築いた痕跡が今も残されています。実際に歩き、触れることで、かつてそこに生きた人々の営みや歴史を五感で感じられる貴重な文化財なのです。

守っていききたい、山城の存在
私たちが一人一人の手で

山城は、その地域ならではの歴史や人々の営みを今に伝える貴重な存在です。一つとして同じものはない、唯一無二の「地域の宝」。今、地域の歴史や文化をよく知る人は少しずつ減っています。歴史民俗博物館で記録として残していくことも大切ですが、地域の中で語り継がれていくことが何より大切です。そうした積み重ねが、地域への愛着や誇り、アイデンティティーの形成につながっていきます。まずは草刈りからでも構いません。山城に興味を持ち、守り、その価値を次の世代へ受け継いでいってほしいと思います。

歴史紀行で「シリーズお城拝見」を100回連載
歴史民俗博物館副館長 秋本 哲治



山城を訪れる際には「赤色立体地図」がおすすめ

地形の細かな凹凸が一目で分かる、便利な地図。白色が平坦地、赤色が急斜面を示し、人工的な地形を読み取れます。実際に山城を歩く際に携帯すると、城跡の範囲をある程度把握できるようになります。



全国Q地図サイト内で赤色立体地図を閲覧できます。

近隣の地域で行われています 残すための活動

白木町井原地区の山城を守る取り組み

井原地区にある鍋谷城跡や北田城跡、日詰城跡、戸石城跡を整備している井原郷土史研究会。地域の歴史を学ぶ勉強会や年1回の会報誌発行を続けながら、登山道の整備や倒木除去、案内看板の補修などを実施。子どもが楽しめるウォークラリーも開催しました。歴史を文字で後世に残すことと、実際に地域を歩いて山城に親しんでもらうこと。その両面から、地域の歴史を守り伝える活動に取り組まれています。



42年前に井原郷土史研究会ができる前から、地域の人たちがずっと山城を守ってきました。整備は必要な場所を少しずつ進めています。



昨年のウォークラリーには約30人が参加。

山城マニアも魅了! 安芸高田市の山城

NHKなど多くのメディアへ映像を提供する山城ドローン撮影者・堀切さん。福岡県を拠点に西日本各地の山城を巡る中、安芸高田市には特に足しげく通われています。山城を知り尽くす堀切さんが感じる、安芸高田市の山城の魅力とは？



堀切 凡夫さん

安芸高田市には山城が数多く残り、土塁や堀などの遺構も良い状態で保存されています。約5年前に初めて安芸高田市を訪れて以来、これまでに17の山城を撮影。今では、ほぼ毎月のように足を運んでいます(笑)。ドローン撮影では、人が歩く視線を意識することで、当時の人々の動線や暮らしを感じられる映像作りを心掛けています。



山城の魅力を伝える堀切さんのYouTube



YouTubeチャンネル「堀切凡夫」



左から、井原地区青少年健全育成連絡協議会・佐久間義輝さん、井原郷土史研究会 前会長・佐々木恒さん、会長・森川武さん、副会長・渡辺純郎さん、事務局・佐々木卓さん。

広島市のまちづくり制度などを活用して整備しています。山城が残っていると、この地域に文化や人の営みがあったんだと感じられてうれしくなりますね。ウォークラリーでは、案内板に二次元バーコードを貼ってクイズを作りました。50～60代で興味を持ってくれる人もいますので、活動を次世代につないでいきたいです。

歴史民俗博物館

☎お太助フォン 42-0070
生涯学習課 社会教育係
☎お太助フォン 42-0054